

令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

小学校 第4学年 「国語（光村図書）」

171時間（70%）

週	重点に置く指導事項	単元名	教材名	時間数	留意点
四上					
1	Aエオ 知・技(1)オ 知・技(1)ク	言葉のじゅんぴ運動 詩を楽しもう	こんなところが同じだね	1	・「こんなところが同じだね」は、状況によって導入で扱うこととし、「春のうた」の詩では、場面の様子を思い浮かべたり気持ちを想像したりしながら音読することを中心の活動とする ・国語辞典の使い方を紹介し、継続的に取り組ませていく
			春のうた 続けてみよう		
2	Cイ 知・技(1)ク 知・技(3)オ 知・技(2)イ (3)ウ 知・技(1)オ	1 場面と場面をつなげて、考えたことを話そう	白いぼうし	6	・登場人物の気持ちについて、行動や会話、地の文などの描写を根拠に捉えることを中心の活動とする
			図書館の達人になろう	1	・図書館で本を探しやすくする方法について理解させる
3	Aエ 知・技(1)カ 知・技(1)エ	2 筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう	漢字の組み立て 漢字辞典の使い方	4	・本時以外でも継続的に辞典を活用させる
			春の楽しみ	-	・P.100「夏の楽しみ」で扱う
4	Bイエ 知・技(1)キ 知・技(1)エ	気持ちが変わる手紙を書こう	聞き取りメモのくふう	-	・取り扱う時期を★に変更する
			漢字の広場①	-	・①②③をまとめて扱う
5	Cエ 知・技(1)オ 知・技(1)カ	3 場面の様子をくらべて読み、感想を書こう	筆順と字形の関係	3	・学習用具の準備、片付け方や、姿勢、筆の持ち方を確認する ・筆順によって、画の長さが変わったり画の付き方が変わったりすることを意識させる
			思いやりのデザイン アップとルーズで伝える 「じょうほう」考えと例	7	・「【じょうほう】考えと例」を導入で取り扱い、教材文について段落相互の関係に着目して読むことを中心の活動とする
6	Bイエ 知・技(1)キ 知・技(1)エ	気持ちが変わる手紙を書こう	カンジーはかせの都道府県の旅1	1	・社会科との関連を図る
			お礼の気持ちを伝えよう	5	・学級全体で共通の相手に書くこととし、基本的な形式をおさえ、記述することに重点をおいて指導する (参考：県教委オンラインサポート授業)
7	Cエ 知・技(1)オ 知・技(1)カ	3 場面の様子をくらべて読み、感想を書こう	漢字の広場②	-	・①②③をまとめて扱う
			一つの花	6	・叙述を基に場面の移り変わりや、登場人物の気持ちの変化とを結びつけて具体的に想像することを中心の活動とする
8	Bアイ 知・技(2)アイ 知・技(1)エ 知・技(1)オ	事実を分かりやすく報告しよう	つなぎ言葉のはたらきを知ろう	1	・設問については家庭での課題とし、後日、確認する (参考：県教委オンラインサポート授業)
			声に出して楽しもう	1	・リズムを感じながら短歌・俳句を読むことを中心の活動とする。
9	Aエ 知・技(1)カ 知・技(1)オ	大事なことを落とさず聞こう	聞き取りメモのくふう ★	6	・会話全体を記録するのではなく、話し手の話題の中心を考えてメモをとることを中心の活動とする
			「じょうほう」要約するとき 新聞を作ろう	12	・情報の収集の際、「【じょうほう】要約するとき」を取り扱い、新聞の伝えたい題材の設定と情報の収集に重点をおいて指導する
10	Bアイ 知・技(2)アイ 知・技(1)エ 知・技(1)オ	事実を分かりやすく報告しよう	カンジーはかせの都道府県の旅2	1	・社会科との関連を図る
			夏の楽しみ	1	・春や夏の行事の様子について俳句を書く活動を中心とする
11	Cカ 知・技(3)オ 知・技(1)オ	事実を分かりやすく報告しよう	事実にもとづいて書かれた本を読もう ランドセルは海をこえて	4	・「ランドセルは海をこえて」を読んで感じたことや考えたことを、ポップや帯で他学年児童や保護者に伝えることを中心の活動とする
			漢字の組み立て	3	・漢字の部分の組み立て方を意識させる
12	Cカ 知・技(3)オ 知・技(1)オ	事実を分かりやすく報告しよう	平仮名の筆使い	2	・平仮名の「結び」の書き方について理解させる
			忘れもの ぼくは川	1	・2つの詩を読んで感じたことを共有し、それぞれの違いに触れ、他者の感じ方のよさを知ることを中心の活動とする
13	Aオ 知・技(1)ア 知・技(1)オ	対話の練習	あなたなら、どう言う	3	・自分とは違う立場に立って考えることを練習する
			パンフレットを読もう	1	・一つのパンフレットを目的に応じて多面的に見させることで、パンフレットの特徴を理解させる。
14	Cウ 知・技(1)オ 知・技(1)オ 知・技(1)エ	生活の中で読もう	いろいろな意味をもつ言葉	1	・国語辞典で実際に調べさせる
			漢字の広場③	1	・本時で①②③をまとめて扱う
15	知・技(1)エ	生活の中で読もう	漢字の大きさと配列	2	・漢字とかなの大きさ、配列（行の中心と字間）、漢字同士の大きさを意識させる。
			詩を味わおう	1	・2つの詩を読んで感じたことを共有し、それぞれの違いに触れ、他者の感じ方のよさを知ることを中心の活動とする
四下					
10	Cエオカ 知・技(1)オ	1 気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう	ごんぎつね	10	・登場人物の心情の変化を、場面の移り変わりや結び付けて読み取ることを中心の活動とする
11	知・技(1)オ	対話の練習	秋の楽しみ	1	・「秋」の行事について図鑑などを使って調べて語彙を増やしていく
12	Aアオ 知・技(2)イ 知・技(1)エ	役割をいしきしながら話し合おう	クラスみんなで決めるには	8	・話し合いがまとまるような司会の進め方に重点を置いて指導する
13	知・技(1)エ	生活の中で読もう	漢字の広場④	-	・④⑤⑥をまとめて扱う

13	Bウ Cカ 知・技(2)イ (3)オ 知・技(3)ア 知・技(1)エ	2 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう	世界にほこる和紙	7	・文章の組み立てを捉え、中心となる語や文を確かめて要約することを中心の活動とする
			〔じょうほう〕百科事典での調べ方 伝統工芸のよさを伝えよう	8	・百科事典での調べ方を理解させ、クラス共通のテーマで資料の使い方を考えて文章を書くことを中心の活動とする
			慣用句	1	・国語辞典を使って慣用句を調べ、文を作る活動を行う
			短歌・俳句に親しもう(二)	1	・リズムを感じながら短歌・俳句を読むことを中心の活動とする
			漢字の広場⑤	-	・④⑤⑥をまとめて扱う
書写		書きぞめ	2	・書き上げた作品は、観点を定めて、互いの作品を評価し合う時間をとる	
15	Cエカ 知・技(1)オ Bアオ 知・技(1)ア	3 登場人物の変化を中心に読み、物語をしようかいしよう 心の動きを言葉にして、詩を書こう	プラタナスの木	5	・登場人物の心情が変化する場面を取り上げ、叙述を基に具体的に想像することを中心の活動とする ・交流場を設定するなどして、他の考えに触れるとよい
			感動を言葉に	6	・感動したときのことを言葉や短い文にして詩を想像させる ・友達のを読み合い、書き方の工夫を伝え合うことを中心の活動とする
16	知・技(1)オ	詩の楽しみ方を見つけよう	冬の楽しみ	1	・「冬」の行事について図鑑などを使って調べて語彙を増やしていく
			自分だけの詩集を作ろう	3	・3つの「月」の詩を読み、月の様子を想像させる ・テーマを決めて複数の詩を作ることを中心の活動とする
			熟語の意味	2	・①～④の熟語の組み合わせを理解させる ・設問は家庭での課題とし、確認を行う
			漢字の広場⑥	1	・本時で④⑤⑥をまとめて扱う
17	Cウオ 知・技(1)オ Bエ 知・技(1)カ	4 きょうみをもったことを中心に、しようかいしよう 言葉について考えよう	ウナギのなぞを追って	7	・大まかな内容を捉えさせ、児童が興味をもったことをまとめることを中心の活動とする
			つながりに気をつけよう	4	・読み手の立場に立って、友達との感じ方の違いやよいところを見つけさせる
18	Bアウ 知・技(1)カ (2)ア	考えたことを書き、読み合おう	もしものときにそなえよう	11	・目的を意識した情報の収集と、自分の考えとその理由を書き分けることに重点をおいて指導する ・共有の時間では、自分の作品のよいところに気づけるように指導する
19	Aイウ 知・技(1)イ (2)ア	調べて分かったことを話そう	調べて話そう、生活調査隊	8	・アンケートなどで調べたことから伝えたいことを決め、相手を意識して話すことを中心の活動とする
			まちがえやすい漢字	1	・設問は家庭での課題とし、後日、確認を行う
20	書写		まとめ	3	・4年生のまとめとして、学習したことを生かした作品が書けるように指導する。
21	B C 知・技(1)オ	5 読んで感じたことをまとめ、伝え合おう	初雪のふる日	7	・1年間の「書くこと」「読むこと」のまとめとし、児童の実態に合わせて、補強が必要と思われる指導事項に重点を置いて指導する

※時間数の精選方法(例)

○3領域のどの指導事項に重点を置くのかを明確にする

・複数の指導事項を万遍なく指導するのではなく、この教材では、どのような力(指導事項)を身につけさせるのかを明確にすることで、授業時間の削減が可能となります。例えば、教材「新聞を作ろう」では、指導事項ア・イの「題材の設定や文章全体の構成を考えること」を中心に指導し、教材「伝統工芸のよさを伝えよう」では、指導事項ウの「自分の考えとその理由や事例の関係の書き表し方について工夫すること」を中心に指導を行います。「読むこと」、「話すこと・聞くこと」も同様です。

○家庭での課題として取り組ませることで、学習を補う

・言葉に関する学習に出てくる設問などは家庭での課題として取り組ませ、後日、確認を行います。「漢字の広場」については既習内容であるので、①②③、④⑤⑥をそれぞれ1時間としてまとめて扱っています。

○読書単元は学校図書館を活用し、言語活動と結びつけ、読書生活を豊かにする

・読書教材については、指導事項が〔知識及び技能〕(3)「我が国の言語文化に関する事項 オ」になりますので、詳細な読みは行わないのが一般的です。言語活動例を参考にし、読書と言語活動を結びつけ、3領域の資質・能力を向上させるのが望ましいとされます。教材「図書館の達人になろう」「事実にもとづいて書かれた本を読もう」の学習から、学校図書館や地域の施設を活用し、家庭での読書につなげることも可能です。

○書写は取り立てた指導だけではなく、「書くこと」と関連させた指導も行う

・書写の指導に関しては、小学校4学年では年間30時間程度行うものとありますが、光村図書では、手紙を書いたり、新聞を書いたりする「書くこと」の領域の学習において、例えば便箋や封筒の書き方、新聞の割り付けで文字の大きさや配置配列といった指導事項をおさえることが可能です。(本資料では、書写に取り立てた指導を15時間(50%)で作成しています)

○感染症予防対策を踏まえた学習活動の工夫を行う

・教材文等の音読は、マスクをつけることや大きな声を出さないことを指示します。ペアや少人数での話し合い活動も、マスクや声の大きさなどを配慮して行いますが、教室の状況や児童の実態によっては当分の間控えた方がよいでしょう。また、スピーチやプレゼンテーションなど、相手に向けて話す活動は、一定の距離をとって行います。インタビューなどのフィールドワークは、書くことの「情報の収集」と関連させるなど、単元の組み替えを行います。